



FAR EASTERN BOOKSELLERS  
KYOKUTO SHOTEN LTD

KA2017-02 / December 2017

2017年12月発売開始!!



オリンピック研究、オリンピック教育、オリンピック・ムーブメント

## 嘉納治五郎の見果てぬ夢

～幻に終わったアジア初のオリンピック招致資料～

監修：真田 久 (筑波大学教授)

# 東洋のスポーツの中心地 東京

## —1940年幻の東京オリンピック招致アルバム—

### 極東書店復刻版新企画

Sanada, Hisashi (ed. & intro.), Tokyo: Sports Center of the Orient. Reprint. 2017:12

(Kyokuto Shoten, JA) <100-4751>

ISBN 978-4-87394-025-0

特装(函入) ¥28,080 (税込)

Originally published by Tokyo Municipal Office, 1933

アジア初、そして日本で初めてのオリンピック招致を目指して  
震災からの帝都復興のアピールを企図したアルバムを忠実に再現した復刻版

1923年(大正12年)9月、関東大震災で東京は未曾有の大災害に見舞われました。その後、世界大恐慌が発生し、日本の大陸への進出が加速、満州国建国、そして国際連盟からの脱退という激動の時代情勢の中にあつて、東京市(Tokyo Municipal Office)は1932年(昭和7年)の国際オリンピック委員会 (IOC) 総会で、オリンピックの開催都市に正式に立候補しました。

当時の東京市長永田秀次郎は震災からの帝都復興と、日本の本当の姿を見てもらおうと企図しましたが、全国的な盛り上がりは見られず、当初は東京市が中心となって招致活動を行いました。その後、柔道の創始者として国際的な知名度があり、IOC委員を務めた嘉納治五郎らの活躍により、1936年(昭和11年)7月のIOC総会にて、アジア初の東京大会開催が決定します。招致活動の一環として、東京市は東京や日本を知ってもらうことを目的に写真アルバムを作成しました。東京の街並み、日本の風景、スポーツ競技場、日本のスポーツや武道などを紹介する写真が収録されています。外国の要人向けに作成されているため、写真のタイトルや解説等は全文英語となっており、東京の招致委員からIOC委員らに配布されました。オリンピック招致の中心的役割を果たした嘉納治五郎も、招致活動の際に自らこの写真アルバムを配布しました。



日中戦争の激化に伴い、1938年(昭和13年)、カイロでのIOC総会では開催が危ぶまれ、その帰国途上で嘉納治五郎が病死するに至り、日本政府は1938年7月に開催権を返上します。ここにアジア初の東京オリンピックは幻に終わりました。

本書は招致活動最初期の、日本初、アジア初のオリンピック招致資料と言える写真アルバムを忠実に再現し、監修者 真田久先生(筑波大学教授)の解説と、英語本文には日本語の翻訳が付いています。オリンピック研究の一級資料であり、研究者はもちろん、大学図書館や公共図書館にもオリンピック教育の良質なテキストとしてお薦めいたします。

## 出版・発売元 極東書店



FAR EASTERN BOOKSELLERS  
KYOKUTO SHOTEN LTD

P.O. Box 72, Kanda, Tokyo 101-8672, JAPAN

URL: <http://www.kyokuto-bk.co.jp>

〒101-8672 東京都千代田区三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル  
〒530-0051 大阪市北区太融寺町 1-17 梅田アスカビル  
〒604-0985 京都市中京区麩屋町丸太町下 井口ビル  
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

☎ 03(3265)7531 FAX (3556)3761  
☎ 06(6362)5515 FAX (6362)8882  
☎ 075(231)2093 FAX (231)3859  
☎ 092(751)6956 FAX (741)0821

E-mail: [info@kyokuto-bk.co.jp](mailto:info@kyokuto-bk.co.jp)

真田久監修

『東洋のスポーツの中心地東京 - 1940年幻の東京オリンピック招致アルバム』 推薦文

田原淳子(国士舘大学教授, 国際ピエール・ド・クーベルタン委員会副会長)

日本とアジアにとって最初にオリンピックの招致に成功した大会。それが1940(昭和15)年東京オリンピックです。この年は、日本の国の成立を意味した初代天皇の即位から2600年目にあたり、当時の日本にとって特別な年でした。日本の競技力は水泳や陸上競技を中心に世界のトップレベルにまで達していました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、この大会がヨーロッパの文化とアジアの文化が融合する歴史的な大会になることに大きな期待を寄せていました。招致のときに、アジア諸国のほか世界の多くの国々が支持した東京オリンピックは、なぜ幻になってしまったのでしょうか。そこに日本が背負うことになった歴史的な使命を感じざるをえません。

戦後、日本は1964年東京大会を皮切りに、数々のオリンピックを招致してきました。その原風景がこのアルバムにあります。ここには、当時の日本人がオリンピックに賭けた熱い想いが映し出されています。今も当時も変わらないスポーツを愛する人々の姿とともに、世界中から来日する人々への歓待の心が込められています。このアルバムに収められている写真を眺めた外国の人々は、まだ訪れたことのない日本をどのように捉えたのでしょうか。

本書は当時の日本を知るための歴史研究の写真資料として、またオリンピックを自国で開催することの意味を考える上でも大変貴重なアルバムです。ぜひ手にとってじっくり眺めてみることをお勧めします。



真田久監修

『東洋のスポーツの中心地東京 - 1940年幻の東京オリンピック招致アルバム』 推薦文

来田享子(中京大学教授, (一社)日本体育学会副会長)

### 幻の東京大会を願った風景と記憶に触れる

1940年幻の東京大会—この歴史は、綿密な史料調査と分析によって明らかにされてきた。嘉納治五郎がIOC委員になったのは1909年。それ以降、嘉納がオリンピック・ムーブメントの中で信頼を勝ち得て、ドイツやイタリアとの政治的交渉を重ねた結果、日本は招致に成功した。副島道正ら日本人IOC委員たちは、戦争へと突き進んでいた日本だからこそ、国際社会の平和の重要さに目を開くため、大会開催が必要だと信じた。オリンピックの理念をめぐる、開催か返上か、IOC内部でも意見は二つに分かれた。副島らの努力の甲斐なく、大会は返上となった。

「1940年幻の東京オリンピック招致アルバム」は、欧米中心であったスポーツ界に向け、東京市が日本や東京の姿を知らせるために作成した写真集である。当時の世相を反映し、国威発揚の想いで収録された1枚もあれば、まだ見ぬ遠い国の人々との友情を夢見た1枚もあつたに違いない。

東京市が空襲により焼野原となり、多くの命が失われた中、残されたこのアルバムの希少さは、いうまでもない。2020年、2度目の東京大会開催を間近にした今、そこでの新たな経験や記憶は、幻と消えざるを得なかった1940年の経験や記憶とつながるものになることを願いたい。アルバムには、純粋にスポーツを楽しむ選手たちと人々や町の日常が映し出されている。それら1枚1枚が、戦争によって失われた風景や人々の記憶への扉を開いてくれるだろう。



株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <http://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: [info@kyokuto-bk.co.jp](mailto:info@kyokuto-bk.co.jp)